横浜

50号特集 ■ 各地域協議会のあゆみ

青少年にやさしい環境を願って

横浜市青少年指導員連絡協議会は、指導員活動の効果的推進と、指導員相互の連絡調整を目的として、昭和４４年に発足し、これまで４５年間にわたり活動を続けています。

協議会発足当時の昭和４０年代は、高度経済成長のピークと低成長時代への移行という、日本経済史の中でも大きな変化の時代。戦後のベビーブーム世代の新しい価値観による消費行動や文化行動と、旧来の日本の価値観とがぶつかりあった時代であり、暴走族、シンナー遊び、対教師暴力の増加といった少年非行も大きな問題として顕在化していました。

当時、全市域で活躍する青少年指導員の数は約 1,700 人。現在に比べれば、まだまだ地域のつながりが残っていたとは言え、横浜市においては急激な人口流入と都市化が進むなか、青少年が家庭や地域で孤立することの無いよう、各指導員が精力的に、青少年育成に関する活動に取り組んでいました。

現在、横浜市青少年指導員連絡協議会は、約 2,700 人の指導員を擁する協議会に発展し、子どもたちを主体としたキャンプやボランティア体験など、地域の様々な事業を支える大きな原動力となっています。

また、青少年の非行防止を目的とした、全市一斉統一行動パトロール活動、子どもたちを取り巻く地域環境を改善するための有害図書の区分陳列調査、社会環境実態調査など、市内各地域で活発な活動を行っています。

石井一也会長は、青少年指導員活動を進める上で重要となる視点を次のように述べています。

PHOTO by Hideo MORI

「世界的な経済の停滞、地域のつながりの希薄化、携帯電話やインターネットをはじめとする、新たな情報通信技術の急速な発達など、青少年を取り巻く社会環境は大きく変化しています。

虐待、いじめ、非行、ひきこもりや若年無業など、支援を必要とする青少年も増加の一途をたどっていますが、これらの課題の多くは、多様な大人と接する機会、自然体験や社会体験などの不足が一因であるとも言われています。

私たちの活動には、幼いうちから『命を感じるセンスを･･･』というコンセプトで行う自然体験教室があります。今こそ、命の尊さ、人と人とのつながりの大切さといった原点を見つめ直し、デジタルからアナログへというギアチェンジが必要ではないでしょうか」

これからも、横浜の将来を担う青少年が、夢や希望を持って育っていけるよう、横浜市青少年指導員連絡協議会は「地域ぐるみの青少年育成」をテーマに、様々な活動を続けてまいります。

横浜市青少年指導員大会

あいちゃん

このマークは、青少年にやさしい環境を願って、
横浜の青少年指導員が決めたものです。